

# 家庭科では男女共同参画の視点に基づく「自立」に寄与するキャリア教育が可能！

キーワード

高校生、男女共同参画、キャリア教育

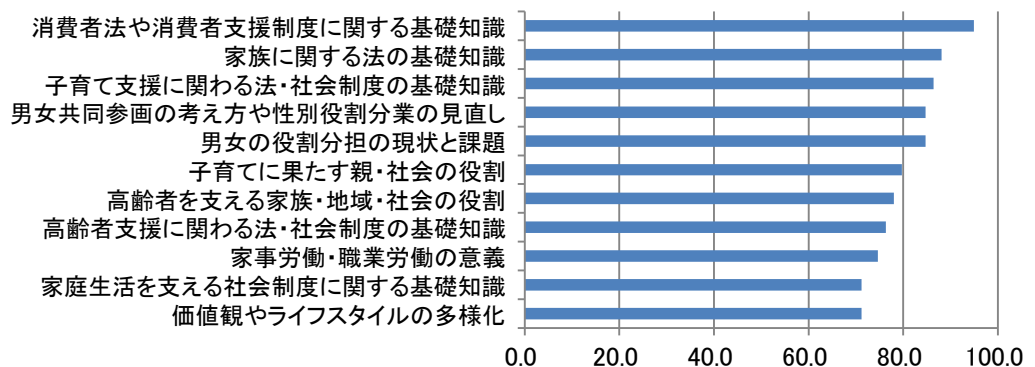
結論  
(エビデンス)

家庭科ではライフコースを具体的に描かせ、学校教育と職業生活の接続から家庭生活の営みにわたる生き方全般をとらえたキャリア教育が可能である。男女共同参画社会が標榜される今日、高等学校家庭科とキャリア教育との関わりについて、2011年1月の中央教育審議会答申「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について」および同年11月刊行の文部科学省「高等学校キャリア教育の手引」と学習指導要領における共通教科家庭科「家庭総合」の内容をもとに検討した。

中央教育審議会答申および「手引」から、教科・科目等を通じたキャリア教育として家庭科が明示され、家庭科の内容のほぼ全体をキャリア教育として展開しうるものと認められていることが明らかになった。「家庭総合」の内容をみると、キャリア教育政策において提示される「基礎的・汎用的能力」に4つの能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリア・プランニング能力)はすべて男女共同参画の視点から扱うことが可能であることがわかった。

以上の家庭科とキャリア教育との関連について、高校家庭科教師がどのように受け止めているかということが、アンケート調査から明らかになった。人間形成・社会形成能力として男女の役割分担や家事労働・職業労働の意義、子育てや高齢者に対する社会的支援や制度についての基礎知識や考え方について、教師は家庭科で取り上げていた。また、生徒に家庭科で身につけてほしいこととして、「生活者として自立するための知識・技術を習得する」と回答した教師は86.4%であり、「人の一生と青年期の自立」の内容においてキャリア教育を意識している割合は79.7%を占めていた。

授業で扱っている内容と実施割合(上位の内容抜粋)



内容説明

■教員に対するアンケート調査について■

実施時期: 2013年5月~6月

対象者: 茨城県内の公立高等学校100校、私立高等学校23校の家庭科担当教員計123人。

主な調査項目: 授業で扱っている内容、家庭科の学習を通して身につけてほしいこと、キャリア教育を行っているという意識

学校種

小・中・**高**・大・その他

領域・分野

家族・家庭生活 食生活 衣生活 住生活

高齢者福祉 保育 消費生活・環境 **その他**

論文名・題材名等

高等学校家庭科におけるキャリア教育の課題—男女共同参画の視点から—

執筆者・実践者等氏名・所属名

佐藤裕紀子(茨城大学教育学部)

掲載・発表学会誌・報告書・雑誌・書籍等

日本家庭科教育学会誌

巻・号/  
出版社他  
(Op-Op)

第57巻第4  
号 (261p-  
271p)

掲載・実践  
年月日/  
出版年

2015.2